

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

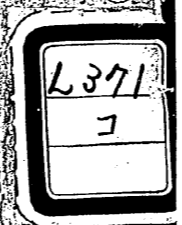


學務部學務課



本校郷土教育研究施設の實際

入間郡高麗川尋常高等小學校



目次

- はしがき
- (一) 郷土教育の目的観
 - (二) 郷土教育の方針
 - (三) 本校郷土教育の實際狀況
1. 研究調査事項
- 一、郷土調査
 - 二、各科郷土化細目
 - 三、各科郷土化資料の研究
 - 四、郷土學習題材の研究
 - 五、郷土資料の蒐集作製
 - 六、郷土植物動物岩石の採集と標本作製
 - 2. 施設事項
 - 七、郷土中心の教育概
- 八、神社祭典等の取扱
 - 九、郷土の自由研究
 - 十、實地踏査及臨地學習
 - 十一、夏季休業中に於ける兒童の郷土研究
 - 十二、郷土學藝會
 - 十三、郷土展覽會
 - 十四、郷土文集の刊行
 - 十五、學校園の經營
 - 十六、動物の飼育
 - 十七、郷土の天文氣象材料の繼續觀察
 - 十八、農業教育の實際
- (四)「郷土教育は郷土人總動員」の一端

本校郷土教育研究施設の實際

はしがき

本校は過去三、四年の間に我が國が要求してあるべきもの、
 郷土教育の實際的研究に、殆ど没頭してきた。
 教育の生命は理論と實踐とを離れては成り立たない。吾
 ら實際家は、この二つを離れては成り立たない。實際
 は正しき方向と、その根拠をつたつ確實なる理論的根
 拠を必要とする。従つて、この二つを離れては成り立た
 ない。従つて、この二つを離れては成り立たない。従つて、
 教育とは何ぞやとの問題を解決することを要するので
 ある。殊にわが郷土教育を一の流行物の如く考へるも
 のあるに於てをやである。事をなすに先づ慎重な熟慮
 を必要とする。

そこで吾々は先づ研究の當初に於て、これら郷土教
 育の根本的概念を、次にその一部を記載せる如き現下
 のあらゆる著書研究物によつて確認することに努めた
 参考圖書

○現代作業教育の諸問題 北澤種一著

- 郷土教育の新開拓 寺田彌吉著
- 郷土教育の實際的研究 眞野常雄著
- 新郷土教育の實際 和歌山師範附屬小學校著
- 新時代の郷土教育 山崎博著
- 各學年新郷土教育の實踐 峯地光重著
- 郷土に即したる算術教育 小岩下吉衛著
- 修、史、國の郷土化教育 高師六訓導著
- 郷土生活中心私の作業學校 齋藤富著
- 郷土中心農村學校經營 佐藤隆徳著
- 新郷土教育の原理と實際 峯地光重著
- 現代作業教育 北澤種一著
- 郷土の本質と郷土教育 小川正行著
- 農業補習學校の經營 岡篤郎著
- 郷土調査の理論と實際 岡篤郎著

- 生きたる環境 大浦 茂樹 著
- 學習園の經營とその活用 關原 吉雄 著
- 理科環境の新經營法 滋賀縣 島小學校 著
- 体験と信念にの學習と實踐 千葉 春雄 著
- 基く郷土教育の實際研究 廣島 高師 附屬 著
- 郷土教育の實際研究 山崎 博 著
- 勞作と教育 滋賀縣 島小學校 著
- 研究と郷土教育の再吟味 橋本 重次郎 著
- 批判 安治 博道 著
- 郷土の調査及研究 各教科の郷土化の實際 佐々木 清治 著
- 各科教材の郷土化 郷土教育聯盟 著
- 郷土の地理的研究 郷土教育聯盟 著
- 郷土調査必携 同 著
- 郷土調査帳 同 著
- 郷土學習帳 同 著
- 郷土教育の實現と夏休經營 野村 芳兵衛 著
- 郷土學習提要 同 著
- 其の他雜誌 × 郷土

× 郷土科學
× 郷土教育 等

の外、七十有五冊
研究の當初に於ては可成、之等幾多の郷土教育思潮は、吾々の所謂郷土教育の使命、眞髓の把握を苦しませた。
然しながら吾々は一意研究に専念し、斯に郷土教育の意義目的を確し、而して本校としての郷土教育の方針を樹立、續いて吾々指導者としての郷土認識、郷土教育實踐上の問題の研究、施設を考究し今や着々とその實施に歩を進めてゐる。
現在に至る我々の郷土教育の研究及その實施狀況の
大要は、後章に詳細に擧げたつもりであるが、現時更に之を視つむる時、また實際教育に直面する時、之等研究施設の未だ甚だ淺薄、杜撰な點も無いではない。更に今後の深甚の考慮と補修とに依り完璧を期するつもりである。

※ 研究施設調査物
1 郷土調査

- 2 各科郷土化細目
 - 3 各科郷土化資料
 - 4 國語讀本に現れたる標準語と郷土の方言訛言の研究
 - 5 入間の方言考
 - 6 郷土に即したる綴方指導系統案
 - 7 學習園の經營
 - 8 郷土産昆虫の研究
 - 9 郷土産植物の研究
 - 10 動物繼續的觀察の研究
 - 11 教育材料を主としたる算術補充問題
 - 12 郷土展覽會出品目録
- (一) 郷土教育の目的
郷土は教育的方便であり、教育的目的である。即ち吾々は郷土教育を、方法的原理と目的々原理の上に樹立する。
存在としての郷土に據る教育並實在としての郷土に據る教育は、即ち方法的原理で、理念としての郷土への教育は目的々原理である。郷土教育を方法的原理として眺めることは、すでに早くから實施せられてきた

事で別に不思議はない。

兒童に用ひられてゐる國定教科書は、いふまでもなくそれは全國劃一の教授材料であつて、兒童にはこれが所與として課せられるものである。従つてそれ等教授材料が兒童に眞に認識了會されるためには、認識了會のなし待たる基礎根柢を欠くことは出来ぬ。この根柢なしには如何なる教授材料も彼等の腦裏には徹しない而して吾々はこの兒童の認識了會の根柢を教育を以て他に見出し得ないのである。換言すれば、郷土を知り郷土により學び郷土を生活經驗の場所とし、具體的理解の方便とすること以外は不可能といはねばならない。尋一の「ユフヤケ」の文を扱ふにしても、吾々はこの文章を彼等の具體的生活、具體的環境に交渉せしめることによつて文章そのものの内容を把握せしめることが出来ると同時に、無意識的郷土即ちうっかりして未だ氣づかざりし郷土の情景、生活等が生々と體驗されてくる。かくして自覺的郷土が兒童の實在として如實に把握されるのだ。吾々はこの過程を教材の郷土化といひたい。
教育といふ仕事は兒童の生命に培つて行くものなる

以上、各教材は郷土化すべき性質のものであることは論を俟たぬ、而してこの郷土化は實際に當つてはその教材を眞に了得せしめんため手段方法であると共に、また郷土意識の啓培、認識ともなるものである。

この意識的郷土即ち体験として兒童に實在せる郷土に據つて教材の徹底をはからんとするのが、方法原理に立つ郷土教育である。

更に郷土教育を目的原理の上に立つて眺めると、それは先づよりよき郷土にまでの教育なりと考へることが出来る。よりよき郷土にまでの教育とは、郷土文化の創造、郷土産業の開発等に向つての根強き郷土意識啓培である。即ち今日の郷土に立脚して明日の郷土建設への郷土愛の覺醒である。己れの郷土をして、よりよく幸福に、よりよく文化的に進ましめんとする社會意識、郷土意識の覺醒は今日の我國現狀にとつて重要事である。

よりよき價值創造への精進は人生の目的である。よりよき己が郷土創造への社會奉仕は郷土人として當にありべき目標であらねばならぬ。

吾々は郷土教育の窮極の目的を實にこゝに至らしめ

たいのである。

郷土意識の啓培はその必然の過程として郷土の認識了會を経ねばならぬ。兒童に眞の己が郷土の自然現象を認識せしめ、眞に己が郷土の文化事象を了會せしめることは學習の重要な部面であり、愛國心の萌芽であり教育の目標である。即ち郷土は教育的目的であるといふ事が出来る。

郷土が斯の如き教育的意義を持つが故に、此の誰しも非常なる愛着を有する自己の郷土を教育の對象として、兒童の生活に極めて切實なる教育をなし、將來有爲な國民の教養を期することはとりもなほさず郷土教育の目的である。更に換言して、教育の方法から見れば郷土の自然及生活を直觀せしめ、認識せしめ、体験せしめるので、目的から觀れば自我の所在を中心として郷土に親しみ、之を愛し、之を保護し以て人格價値を向上させることになる。

本校は此の見地から郷土教育の目的々事項をして

一、國民全般共通事項を郷土材料に依り具体化し實際化させ理解させ徹底をはかる。

二、國家共通材料も郷土材料と融合々体して兒童生

活に切實なる材料たらしめて、兒童の直接經驗と合流せしむ。

三、郷土事項を兒童の郷土生活に實演させ、之が徹底を圖る。

四、郷土の認識。

五、郷土愛の精神の涵養。

六、社會完成への教育と定めてある。

(二) 郷土教育の方針

一、郷土により教育の具体化、實際化をはかり且兒童の体験に訴へ兒童生活に切實なるものたらしめ教育の徹底を期す。

二、郷土學習は學習の發展的考察により擴大せしむ。

三、郷土は綜合的中心で、教科としての郷土でなく、

原則としての郷土である。

四、兒童の自由研究を重視す。

五、郷土學習の習得したる事項は知識でなく考案の材料である。

六、郷土學習は助長すべき長所、改善すべき短所を逸してはならぬ。

七、郷土は常にその範圍を擴大し、決して偏狹に陥つてはならぬ。

八、存在としての教育より價値への郷土へ。

(不變の事實として見ず文化價値の上より眞の郷土を見出せ。)

(三) 本校郷土教育の實際狀況

(1) 研究調査事項

一、郷土調査

郷土教育は郷土研究の上に立たなければならず、郷土の研究は教育の基調としてでなければその効果はない。

教育への郷土研究は教育者自らが郷土を認識しその郷土に立脚してよりよき教育を施すためであるから村の特殊な歴史や傳説とか何々の特異性とか特色とかはなくとも、現狀により將來への示唆を持てばよい。現狀を審かに知ることは郷土の生命に解れやがて將來の發展進化を生む力となる。

生命体としての綜合的な研究が望ましい。郷土の總ての事象を詳細に調査せんとしても際限のないことでもあり又調査したところで實際教育には役立たない。

それよりも郷土人の歩んで来た生活が如何に進化し、如何なる因縁によつて現在になつてゐるかを郷土の具象を通して味ひ且、郷土は自然と文化との綜合体で特別な親和關係にある地人渾一の生命体として地域的進化を明確に把握すべきであるから、その研究は郷土精神の個に徹し生命に觸れるために綜合的でないならばならぬ。生命はただ具象を通してのみ味ひ得られるのである。

次に総合的考察を逸してはならない。有機体としての郷土の分析的研究は、綜合への前提としての研究で郷土事象も多方面からこれが觀察をなし綜合し考察して郷土の生命に觸れなければならぬと思ふ。

當校に於ては昭和六年八月郷土調査の一段落を遂げたが此の研究は目的々には郷土教育への研究であり、教師の郷土認識の一部とはなつたもの、今後更に一層徹底した郷土の総合的研究に向つて歩みを進めやうと企劃して居る。

二、各科郷土化細目

郷土教育實踐の方法としては二つの部面があると考へる。

三、各科郷土資料

各教科の學習を郷土化することは郷土教育上の重要問題の一つである。如何に郷土化すべきであるかは各科郷土化細目によるべきである。したがつてこれを實踐する上に於て各科別の郷土資料が調査研究には便利な點がある。然しこの資料を以て直に彼等兒童に注入的記載的に學習させるのでは勿論ない。郷土教育は兒童を郷土の土の上に實地に足を下させねば出来ない教育である。勞作的に行動によつて學習させる部面が多い。即ち實地踏査とか臨地學習とか學習生活を街頭に進出させたり或は獨立的に調査をさせるなど體驗的方法によることが多いのであるが、教師として確實な資料を持つことは極めて必要なことである。この意味で調査研究したのが各科郷土資料である。

四、郷土學習題材の研究

郷土教育實踐の方法として

(一) 教材の郷土化による方法

(二) 郷土學習題材による方法
の二つの部面があることを前に述べたが、「郷土學習題材の研究」について考へてみる。教材の郷土化につ

六
(一) 郷土學習題材による方法
(二) 教科書教材を郷土化する方法
本校で郷土化細目を研究調査したのも教科書教材を郷土化するためである。

凡そ教材が本當に教育的意義を十分に發揮するにはその教材が一般性を持つと同時に特殊性を多分に持たなければならぬのである。

この特殊性とは地方的郷土の要素の謂である。「正直」といふ一般性は隣のお爺さんの正直、交友間の正直といふ兒童の郷土生活環境に求めてこそ初めて新鮮なる正直の内容となつて教育的に兒童に働きかける。亦算術科において「租税」なる題目について學習させる場合教材を郷土環境に密着させ兒童を郷土に密着させることによつて理解も容易に且亦郷土認識の一部ともなる。かやうに各科において郷土環境により具体性特殊性を強調することによつて教材はよく理解されて生氣を生じ、更に郷土化の發展的取扱と相俟つて、郷土の事象が教科書學習の理解の手段となるのみならず郷土教育本來の使命である郷土認識の一部ともなるのである。

いは郷土の事象は學習の手段でもあり目的でもあるしかしこれだけでは十分に郷土認識といふ郷土教育本來の使命を果すことが困難な場合がある。この不足欠陥を補ふためには、學習題材を郷土に求める郷土認識をのみ目ざして進む方法も加味する必要がある。さて或一つの郷土事象を正しく認識するためには、種々の方面から種々の研究を進めてみて初めて完全に認識出来るのである。事實の一部分だけを觀察して結論を下すと往々にして誤つた論斷を得ることがある。ここにおいて総合的研究が必要である。さて事實の総合的研究の完成を期するには、相當長期に亘り、學年を追つてその學年相當の研究を進めるやうにせねばならぬ題材もある。

例へば高麗川村の學校を研究するにしても、その研究の部面はいろ／＼ある。すべての事項が研究され、結果が綜合されてこそ初めて高麗川の學校の地位がはつきりする。

故に一通り研究し盡されるのは、尋一から卒業まで或る項目は尋一の研究材料となり、或るものは尋三に適當に或る部面は六年といふ風に學年相當の研究材

料となる。次に郷土學習題材として挙ぐべきものは多
いが、その中でも郷土認識上重要なものを選定して、
兒童の發達程度を考慮して適當な學年に配當して學習
させることは郷土を認識させる上において重要な一つ
の方法であると思ふ。この意味のもとに目下研究作製
中であるのが「郷土學習題材の研究」である。

五、郷土の各種の資料の製作と蒐集

郷土教育は郷土の實狀に立脚して目的々に方法的に
行はるゝ實際的教育であるが故に先づ郷土社會たる我
郷土の實狀を詳に知悉せねばならない。

郷土の現勢に即した詳細なる調査は何といつても根
本的の重要事である。更に之が調査を基礎に我郷土の
現勢を如實に現はして我郷土の長短優劣を考へ向上進
歩をはかるは眞に郷土に即する教育といふことが出来
よう。

我校はこの意味から郷土の現勢に即した詳細なる調
査研究から又はその他から各方面各種の資料の蒐集、
製作に當つてゐる。

左に重なる資料を舉ぐれば

1. 郷土地域の細胞たる家に關する資料の製作

2. 郷土の地域の位置、地形、地質、氣候等に關する資料の製作
3. 郷土の生活狀況に關する資料の製作
4. 各種産業狀況に關する寫眞繪葉書の蒐集
5. 名勝に關する寫眞繪葉書の蒐集
6. 地理的基礎觀念培養に關する資料の製作
7. 遺跡遺物の蒐集
8. 社會生活(文化)に直接的なる資料の蒐集等
6. 郷土産動物植物岩石採集と標本作製

兒童と共に野外に出て動植物を採集研究すること
は一面自然に親ませ、郷土の自然を認識して自然愛の
心を培ふ點から考へても効果がある。他に又教師兒童
共働の力になる郷土室の資料ともなる。この意味に於
て本校では兒童と共にこの種の作業にあたつてゐる現
在作製してゐるもの

昆 虫 約一五〇種

植物標本 三五〇種

岩石標本 三〇點

(2) 施設事項

七、郷土中心の教育層

國家行事學校行事公民學校訓練所行事その他社會教
育行事訓練養護層等月別日別に作製し置き之が遂行上
遺漏なきを期す。

八、神社祭典の取扱

敬神崇祖の精神を涵養するに最も適切なる時期であ
る。依つて此際兒童をして參拜せしむると共に敬神に
關する講話をなす。

四月二十五日 天 神 社 職員兒童參拜

十月十五日 高麗川神社 同

十月九日 野々宮神社

九、郷土の自由研究

郷土の題目を學年相當に採擇して夏季休業及び平素
學習に關聯して兒童に調査研究を課す一面兒童自らが
自ら選んだ題目で自からの力でなしとけるといふ自由
研究も兒童の生活意慾を旺盛ならしむるために必要な
ことである。當校ではこの意味で兒童の自由研究を奨
勵し課題研究と相俟てその効果を大ならしむるために
郷土展覽會郷土發表會を開催してゐる。

十、實地踏査及臨地學習

郷土の學習は郷土によつて行はれるのであるから實

地踏査臨地學習が重要な方法である。

十一、夏季休業中に於ける兒童の郷土學習

一、夏休みに於ける子供

夏休みは子供自身の生活を持つ機會が與へられるの

で郷土の學習には最も都合がよい即ち

自然に親しむ機會が多い

家庭の生活及職業等に對する體驗が出来る

社會の事情に觸れる機會が多い

自由な研究の機會を待つ

二、郷土學習を課すことによつて

自から郷土の研究調査をなすことによつて教材を郷
土に求むることが出来る。

郷土の實情をより深く調査研究することによつて學
習を實生活に役立てることが出来る。

社會の實情に觸れ考察することによつて社會的公民
的精神の涵養並その訓練が出来る。

三、夏休みに於ける郷土學習事項

A 郷土の調査研究

郷土の自然

郷土の人

郷土の自然

らこの夏休を利用してこの仕事に努力せんとする理解と激励とを與へる。

B 學習方法の協議決定

1. 學習の題材をきめる

郷土の總覽(別表)から郷土學習題材選擇例を參考して學年に適應せる題目を選ぶ

2. 實際調査研究の方法の工夫(參考資料等も)

教師兒童の協議

教師の指導

3. 協同研究

4. 分擔研究

C 處理

郷土展覽會郷土發表會の開催(九月)

尙適當に整理して學習の資料とす。

郷土の産業
郷土の文化
郷土による學習

郷土の綴方

郷土の圖畫

郷土の手工

郷土の統計圖表

四、學習方法

A 子供に對して

自分を知り吾が村を知り世の中の事柄を知つて社會に役立つ人間にまで伸びねばならぬ皆は自分の手で足で眼で耳で我が郷土を知り自分を訓練しなければならぬことから郷土の研究調査は大事な仕事である。そして自分の調べや作ったものが後の學習に又外の人の學習に少しでも役立つなら大變嬉しい事であるか

附

郷土のしらべ(郷土學習題材選擇例)

尋	一、	二	尋	三、	四	尋	五、	六	高	一、	二
コノゴロアルハナノナ			八月ノ晴曇雨ノ日			温度			氣象		

コノゴロ	ハダケニ	ツクツテアルモノ	ワルイコトヲスルムシシツテキル	クサ	ムシ	トリ	ケモノ	オウチノヒト	ヨソヘイツタトコロ	ウチデシタシゴト	アンビ	シツテキル	カミサマ	オテラ						
夕立ノアツタ日	八月中一番	アツカツタ日ノ温度	スズシカツタ日ノ温度	畑ノ作物	家ニアル草花	家ニアル果樹	家近所ニキル	鳥	歌	野外ノ草、木、鳥、獸、魚	虫(コノヘンニキルモノ)	私ノ家	着物	近所ノオ店テ賣ツテキルモノ	學校カラ自分ノ字マテ	家マテ何米	家ノ前ノ道	道ノ巾	ドコヘ行ク	
コノゴロノ	植物	動物	虫	魚	鳥	歌	家ノ間取	家ノ宅地	着物ノ種類	食物ノ種類	コノゴロノ村ノ人ノ仕事	ソノ働ク時間	畑ノ作物	コノ村ノ道ノ調	近所デトル新聞ノ名	商業ノ種類	村テ賣買サレル商品	村ソトカラ買入レルモノ	コソ村ヘ賣出スモノ	
晴曇	湿度	雨量	野外ノ	植物	動物	岩石	採種	氣象ノ調	温度	湿度	雨量	宅地利用狀況	家屋構造	村ノ主ナル農作物	村ノ副業ノ調	村ノ果樹園藝	農具ノ調	家具ノ調	物價	商業ノ調

通ルモノ
トラックニ積ンダ荷物
車ノ荷物

家畜家禽ノ種類及品種
近所ニ多イ夏秋露ノ掃立ノ日

物資ノ移出入

十二、郷土學藝會

郷土の文化、郷土の色彩等は一地方ノ皆特異性を持つてゐる。故にこの特殊な文化、特別な郷土色彩を最も十全に最も有効に生かして行くこそ眞の教育であり、眞の學藝會であらう。

これによつて兒童は不明なりし郷土の意識を明確にし熾烈ならざりし郷土愛を旺盛にし、更に郷土人として、或は人間としての正しい生活の道を淡いながらも見出すであらう。

我が校に於てはこの意味に於て毎學期一回宛の豫定を以て次の如き方針の下之が開催を企圖己にその實踐にあつてゐるのである。

◎方針

1. 資料は郷土的色彩の濃厚なるものたるべきこと
2. 表現は兒童の生活に即し、郷土に即したるもの
3. 生活の土臺たる郷土の自然、文化の全野に亘り偏狹

に失せざること

4. 資料は現在、過去に於て郷土社會に如何に關係し、影響を與へたものたるものなるかを吟味すること
5. 兒童の活動を主とし自治的社會的精神を強調すべきこと
6. 兒童に郷土學藝會の意義を具体的に明確に把握せしめ自覺ある態度をとらしむること

尙二學期に行つた郷土學藝會プログラムを擧げて見る
プログラム

郷土學藝會プログラム 昭和七年九月二十二日

高麗川尋常高等小學校

一、開會

二、發表

- 1 唱歌 われらの高麗川
- 2 話方 郷土の薬用植物有毒
- 3 綴方 植物の採集について
- 4 話方 八月中の天氣について

高一、二女 全 休

高二 小作 定吉

一西 中善寺キ

三西 伊藤 初治

5 話方

6 唱歌 月

7 話方 郷土の有毒植物について

8 綴方 今度出来る道

9 話方

10 話方 鹿山の傳説

11 唱歌 ポプラ

12 話方 私の交通調査

13 綴方 村のしらべをはじめる時

14 話方

15 唱歌 砂場ほりませう

16 綴方 夏休中の虫取

17 綴方 アメノフル日

18 話方 私の字の傳説

19 話方

20 話方 我が家の主要なる日用品の需給關係について

21 唱歌 カリ

22 綴方 竹について

23 話方

24 話方 郷土の廢物利用について

25 話方 郷土の民間天氣豫報

26 話方 郷土の紋章について

五 東

一 東

六 年

四 東

五 西

高 二

二 西

高 二

二 東

一 西

五 西

一 西

三 東

一 東

高 二

一 西

高 二

二 東

二 東

五 東

高 二

六 年

高 二

大野 弘

木田 四郎

大澤 隆

小倉 さく

小久保福治

森田 太郎

竹野谷芳子

外 九 名

島野 廣次

小久保幸子

島田 庄助

水村 三郎

外 數 名

野々宮高茂

菱川 春江

野口 伊助

駒井 要吉

武藤 米一

大野 初子

外 九 名

岩澤 眞志

小峯 文雄

國分 しま

岡野喜一郎

關口政之助

三、閉會

十三、郷土展覽會

郷土教育並郷土の自然及文化に關係する兒童の作品蒐集品、學習せるもの、若くは郷土人の遺物、遺墨、其他郷土に關する諸般資料を展覽し、以て兒童の郷土意識、郷土感の啓培助長に資するの目的の下に企圖したものである。

便宜上次の二種類に區分してゐる。

A 土郷展覽會

B 郷土資料展

A 郷土展

之は兒童の研究作品、蒐集品の展覽を主体とするもので夏休み冬休み等の長期の休暇に於ける郷土學習をした後に行ふもので兒童相互は勿論、父兄、母姉、一般

の參觀まで許すものである。

B. 郷土資料展

郷土人の遺墨、遺物、其他郷土に關する、種々の資料例へば兒童の學習の結果に成れるもの、自由研究になれるもの、蒐集、採集になれるもの、又郷土の産業經濟、地理的方面の資料とか、郷土史に關する遺跡、遺物とか或は自然的方面の教育參考資料とかいふものを展覧するを本体とする。第二學期初にA B合同の展覧會を開催した、その際の出品目録は次の通りである。

郷土調査展覧會出品目録

昭和七年九月二十二日

高麗川尋常高等小學校

尋一

- 一、私の家の人達
- 二、自分の家に飼つてあるもの
- 三、知つてゐるお宮とお寺
- 四、御飯をたくのにごこの水を使ふか
- 五、川にゐるもの
- 六、今咲く花
- 七、自分の家に咲いてゐる花

- 八、照明の種類と點燈數
- 九、この頃食べる野菜……附 その中で何が好きか
- 十、山の虫
- 十一、お勝手道具
- 十二、學校道具
- 十三、木の葉の寫し描き

尋二

- 一、どうぐしらべ
- 二、私のうち
- 三、せみ
- 四、家畜しらべ
- 五、たべものしらべ
- 六、しんるゐしらべ
- 七、燃料しらべ
- 八、はきものしらべ
- 九、竹
- 十、川とはし
- 十一、木の葉のしやせい
- 十二、土
- 十三、野菜と果物

尋三

- 一、家から學校まで
- 二、私の家について
- 三、家について
- 四、食物について
- 五、昆虫標本
- 六、おし葉標本

尋四

- 一、天氣と生活
- 二、天氣の色別圖表
- 三、水量變化のしらべ
- 四、郷土の看板について
- 五、郷土の屋號について
- 六、郷土の物品の實測
- 七、郷土の植物(草花、果樹、藥草)
- 八、近所の店で賣つてゐるもの
- 九、郷土の鳥獸について
- 十、郷土の虫の研究
- 十一、私の村と私の家の圖表

尋五

- 一、郷土の家畜家禽調べ
- 二、郷土の家の向の調べ
- 三、郷土の照明調べ(電燈(屋外燈、外燈)、ランプ)
- 四、郷土の家の建て方調べ
- 五、郷土の家の住ひ方調べ
- 六、郷土の附屬家屋の調べ
- 七、郷土の車類の調べ
- 八、郷土で使用するマッチの種類と單價
- 九、郵便切手の蒐集
- 十、郷土の井戸の調べ
- 十一、其他
- 暑中休暇中の家庭の溫度
- 此の村にすむ蛇類の調べ
- おし葉……個人の採集物
- 暑中休暇中の日誌
- 此の村に産するきのこ類の調べ

尋六

- 一、私の家の紋……… 尋六全兒童
- 二、高麗川村の家の調べ(家根、階數、家の向)同
- 三、宅地調べ……… 同

- 四、住宅調べ……………同
- 五、郷土の民間天氣豫報……………同
- 六、私達の身體の發育に關する圖表……………全 部
- 七、體温及脈搏測定と圖表……………岡野 林作
- 八、郷土の有毒植物……………尋 六
- 九、郷土の社寺……………宮澤外八名

高一男

- 一、郷土圖畫
- 二、郷土の動物調査
- 三、郷土の植物の調査
- 四、郷土の昆虫の採集
- 五、郷土の藥草採集
- 六、郷土の家屋調査
- 七、郷土の農具調べ
- 八、郷土の家具の調べ
- 九、郷土の氣象
- 十、公衆使用物の調べ
- 十一、郷土にあるマツチのレッテル
- 十二、郷土商店に於ける販賣物品

高一女

- 一、我が家の氣温調査
 - 二、自家の農具調査
 - 三、郷土の農作物(夏季)調査
 - 四、八月中の晴、雨、風の調査
 - 五、村の氣温圖表(八月中)
 - 六、郷土の食用植物
 - 七、郷土の觀賞用植物(庭樹、草花)
 - 八、郷土の哺乳類
 - 九、郷土の昆虫類 附蜘蛛類
 - 十、郷土産植物の錯葉調査
- 高二(展覽物)
- 一、我が村の藥草の種類と効用……………小作 定吉
 - 二、私の家の紋所……………高二 全部
 - 三、我が家の需給調査……………同
 - 四、我が村の住宅調査……………同
 - 五、郷土の高齡者調べ……………大澤、小作、神田
 - 六、郷土の交通調査……………島野 廣次
 - 七、八月中の風向、風力……………同 前
 - 八、私の字の傳説、迷信、歴史……………高二 數名
 - 九、吾等の郷土を語る……………高二 有志

- 十、私の家に來る他町村からの商人……………同 前
- 十一、私の字芝ヶ谷戸の農家の庭園の草花圖分しま
- 十二、私の字の各家の家系其の他の調べ……………田中公吉
- 十三、私の家の道具調べ……………高二 有志
- 十四、郷土廢物利用狀況……………國分しま
- 十五、我郷土に於けるマツチ……………高二 有志
- 十六、郷土の職業調査……………同
- 十七、我が家の實測……………武藤、小久保、大澤、竹野谷
- 十八、郷土の其の他の雜調査……………有 志

(標本圖表類)

- 一、吾家の需給關係圖……………森田外三名
 - 二、八月中の風向力圖……………島野 廣次
 - 三、交通狀況圖……………同
 - 四、職業調査表……………野口、田中、森田
 - 五、我が村の紋章圖……………關口、加藤
 - 六、井戸の實測圖……………女生 有志
 - 七、郷土の藥用、有毒植物標本……………小作 定吉
 - 八、吾家の豆腐製造圖……………加藤 定吉
- 農業科
- 一、郷土の家畜分布圖

二、郷土に於ける麥の收穫高

三、郷土の土質分布

十四、郷土材を主とした文集の刊行

綴方の郷土化、これは最近可成り聲高く叫ばれる問題である、然し之は別に事新しく高唱すべきことではない。正しい意味の綴方は郷土化の必要はない。吾々は郷土に生れ、郷土に育くまれ、郷土の種々の色に塗られて生長するものである、その郷土の吾々が郷土の生活を表現するこれが眞實の綴方である。全く綴方はその根ざす所は兒童の郷土の生活である生命である。兒童の郷土に即し、生活に即し、環境に即して生れ出る綴方こそ生活指導の根本である。我が校では郷土教育の上から、また生活指導の上から特に一般的な全校兒童文集(伸びゆく心)以外に所謂ローカルカラーの濃厚なるもののみを蒐集した郷土文集を編み郷土に立脚したよりよき教育へと精進してゐる。

- 十五、學習園の經營
 - (1) 一般植物園
- 教科書に現れた植物を蒐集栽植し學習の直觀化に資

してゐる。

(2) 學習園(繼續的實驗觀察園)

生物教材の研究にはその生命の根源を見きほめることが大切であると思ふ。而してその生命は刻々に流動して固定するものではない。この生命の流動は何としても一時的に停止した状態のものを對象としての研究では本質を究明することは出来ない。生物の生長と活動に觸れない研究は無生物の研究と何等變らない。故に理科學習においては常に繼續的研究を必然としなければならぬと思ふ。例へば油菜の研究で單に花の咲いた一過程をとらへて研究するだけでは不十分である。播種より結實まで常に繼續的に勞作學習させなければ眞に油菜を理解學習したとはいへない。

この意味に於て本校では尋一より學級園を設け理科教材或は郷土産植物を兒童に栽培させ植物の一生を通じて觀察させてゐる。

(3) 郷土林園

郷土に産する森林樹木を蒐集栽植し兒童の學習資材としてゐる。

(4) 郷土岩石園

過去に於ける岩石學習を見るに其の標本は極めて小さい貧弱なものであつた、それでは自然の産出状態を想像させることは困難である。又兒童は學校の土台石が何であるか、河原の石にはどんなのがあるか立ち並ぶ墓石が何といふ石だか知らない。こんな欠陥を少くするため本校では岩石園を設計してなるべく自然大の岩石鑛物を蒐集して配列しこれに説明を附してゐる。その岩石は主として郷土産のもの並びに理科教材より採つてゐる。

十六、動物飼育

(1) 動物飼育

動物飼育は植物栽培に比して費用と勞力とを多く用するが動物は植物よりも一層動的であり有意の生活をするから自然に兒童の本性に合致し趣味が多い。且つ實益をかねた作業で、動物愛の心を培ふ等情意の陶冶に効果が多いと思ふ。

本校に於いて飼養してゐるもの

鶏、小禽、兔、豚

(2) 郷土産昆虫飼育とその繼續研究

植物教材の繼續觀察を必要とすれば動物教材の繼續的觀察も強調してよいと思ふ。

本校では昆虫飼育箱十數個を設備し郷土産の害虫益虫並びに理科教材中の昆虫を飼育して繼續觀察をしてゐる。これは靜的な植物に比して動的のためか、兒童は非常に興味を持つてゐる。

(3) 郷土産水生植物水棲動物栽植飼養池

植物園の北側に消防用貯水池を兼ねて水生植物栽植水棲動物飼養池を設け、郷土に産する水生植物水棲動物を飼養して兒童の實驗觀察所としてゐる。

十七、天文氣象教材の繼續的觀察設備

氣變の研究は其の物理的現象の變化推移の繼續的研究に生命があると思ふ。故に不斷の觀察が必要であるかくてこそ郷土の氣象も正しい認識が得られると思ふ本校では二年前よりこの種の設備をして實施してゐる
氣温 尋四以上各學年、毎日二回觀測(午前八時 午後二時)
雨量 高等科
湿度 同
氣壓 同

十八、農業教育の實際

一、設備

1 實習地

イ、畑 一〇七九坪

ロ、山林 三六〇〇坪

2 農具

農具の種類は耕作用收穫用調製用家畜用運搬用農産製造用

3 堆肥舍 一 三坪

4 豚 舍 二室三坪

5 鶏 舍 二室二坪

6 兔 舍 一室一、五坪 穴飼一室一、五坪

7 肥料溜農場用一

二、實習

1 有畜農業實踐

イ、飼料研究

ロ、飼養管理及繁殖

ハ、厩肥の處理鶏糞の處理

ニ、養豚實習豚舍二室品種ヨークシャー一頭バー

クシャー一頭

ホ、養雞實習雞舍二室品種タンクレット十羽アト

キンソン十羽

へ、養兔實習兎舎二室品種メリックン八頭ベルギア
ン三頭

有畜農業實踐により飼養法の研究管理並に繁殖厩肥糞の處理と之が利用を指導する外優良品種の飼養をなし仔豚種卵を生産繁殖せしめこれを村内に拂下げ養豚養雞の品種改良と飼養の奨励に資す。

2 穀類栽培實習

學校實習地に栽培し直觀材料として實地に生育調査を施行せるもの

イ、大麥五品種

ロ、裸麥一品種

ハ、小麥五品種

ニ、陸稻六品種

3 豆菽類

イ、大豆一品種

ロ、小豆一品種

農業經營の根本は食糧の自給自足に立脚すべきものなれば近來生産高の減退を來せる豆菽類の栽培法を指導し經營を着實に遂行する良習慣を養成せんとす。

4 蔬菜類

イ、大根五品種

ロ、白菜三品種

ハ、葱 三品種

ニ、牛蒡一品種

ホ、人蔘二品種

へ、里芋二品種

5 桑樹見本園及育苗圃

桑の品種は多數本村へも紹介せられ新植改植に當り品種の選擇上困難を感ずる向きも少なからず之が選擇に關する指導を行ふ目的により見本園十區を設置し繼續經營す。

6 果樹栽培實習

イ、梨十品種

ロ、梅六品種

ハ、柑橘五品種

ニ、柿十品種

ホ、李二品種

へ、桃二品種

ト、枇杷一品種

12 實驗的實習

イ、麥類優良品種特性調査

ロ、陸稻優良品種特性調査

ハ、麥類蔬菜類病害豫防

13 勞働的實習

三、家庭實習

1 家庭一坪農業

2 一坪農業栽培作物大豆小豆葱白菜大根陸稻麥類

3 桑園間作

4 養豚飼養管理

5 養雞飼養管理

6 養兔に關する實習

7 生産品々評會の開催

(四) 「郷土教育は郷土人總動員」の一端

郷土教育は學校に於ける教育であるばかりでなく、郷土人總員が郷土愛に燃え、郷土振興のために貢獻するに至ることが理想である。本校の郷土教育の實踐は日尙淺いのであるが、我が青年團は郷土研究に立脚して理想郷建設へ着手されたので實に教育理想實現と及び、學校は能ふ限りの協力を傾けつゝあるので特に附

チ、無花果一品種

リ、苹果一品種

ス、葡萄七品種

ル、スグリ一品種

7 梅林

本村は氣候土質共に梅の栽培に適し整枝の材料を要せず年々結實し販路廣ければ特に梅林を新設し移植剪定整枝施肥その他管理の實際を練習し一般果樹園定植のものと同俟て新植品種選定の指導に努む。

8 栗林

栗は郷土に於ける最も普通なる果樹にして風土に適し薪炭林の多き本村としては栗林として一部を改植するは利益増進上必要なれば優良種を選定栽植し栗林經營上の指導に資す。

9 竹林

竹林造成の指導上竹苗移植の時期肥培に關する事項地下莖の成長觀察其他管理の指導を目的とし竹林を設備經營す。

10 觀賞用植物の育苗及び栽培

11 フレーム使用に關する實習

記して御紹介する次第です。

(1)村の調査に就いて團員に告ぐ

高麗川村青年團長 武藤市郎

聯合教化團の國民更生運動綱領に

社會連帶の意識を明にし共濟協力の美風を助長し特に郷土聚落の振興に力むること

産業經營を改善し、消費の合理化を圖り以て新興生活の基本を確立せしむること。

産業經營を改善し消費の合理化を遂げ郷土聚落の振興を圖ることは經濟不況に行詰まれる農村打開上の喫緊事時局に處する重要事で誰もがこゝに自覺し努力すべき事項である。

村の調査の目的も結局は茲に歸するので換言して見るなら愛する郷土を肥らせたい。理想の農村高麗川の建設を圖りたい念願なのです。青年團は修養の團體である、それなら何を如何に修養すべきであるか、身心の修養然り知徳の修養然りであるがその修養の一は各自が育まれ且將來背負ふべき責任のある不離の關係にある我が村を舞台にせる毎日の公私の生活毎日従事する業務こそ吾々青年の修養の直接の對象でなくてはな

らなう。

斯く考へることが眞實な青年の修養で、即ちどこまでも郷土を基調とし各自の業務を通し、各自の生活に則した生々した事象により修養することが緊要なことで時局は亦かく吾々青年に迫つてゐることを痛感する「よい村人は先づよく村を知れ」知るは愛するの基で眞の愛郷心は根強くこゝに生れ、正しく健かな發達を遂げては抜くことの出来ない確固たる愛國心ともなる現實を知つて我が村を愛し我が村を考究することによつて、前述の消費の合理化も、産業經營の改善も企圖されやがては郷土の振興ともなり理想郷の建設ともなると信じ先づ現實の我が村を確知したい。これが村の調べを企てた精神である。

我が村を知るとは

高麗川村の土地は、(田が、畑が、山林が)如何程あつて如何なる(土質は、土性は……)状態であつて如何に分布され、如何に利用され、如何なる生産をしてゐるか村の人は(男女別、年齢、健否、風俗、習慣、道徳等)如何に働き

生産の状態は(生産物は、その生産額は、その經營

法は)どんなか。

交通文化の状態は如何なご多種多様な調査になるが方法順序は當然一部に着手し、次第に深く調べ廣く及んで我が村を認識し將來背負ふ村人の一人として立派な者になり、ひいては住よい幸福な村とし舉村其の實に樂しむ理想郷建設に盡す自治民となり得ると思ふ。

以上のやうな見解から青年修養の一として今回企劃したこの調査事業に對し團員諸君は協力一致よく所期の目的を遂行されんことを切望いたします。これによつて本村産業の實相を確實に掴んで經營上の改善、ひいては生活の合理化等郷土聚落の整齊伸展に向つての資料を発見しこれを攻究することによつて理想の農村建設への歩みを進めたいと祈念するものであります。

(2)郷土の調査研究

高麗川村青年團郷土調査研究部

「郷土の調査研究」の目的

調査員の組織

調査研究實施の概要

調査員の申合

一般調査研究事項

「郷土の調査研究」の目的

青年の修養を其の産業生活の上に体现し研究創造の風を盛にし、青年團運動の基調を作り、合理的事業施設の完成を期し、生活の改善に努めて冗費を節し、能率を擧げ、殊に協力互助の風を涵養して郷土聚落の整齊と向上に努めんとす。

調査委員の組織

調査委員に次の三を置き其の選任・任務・任期は次の如し。

1 常任委員

終始委員たるものにして本事業遂行上特に適切なもの之に當る。

但し將來に於て常任委員を更に委嘱することあるも減員することなし。

任務 調査事項・調査方法・整理・研究の主任となり又會議の座長とをる。

2 委員

本團各支部より推薦せられたるものにつき各區に一名以上を置き團長之を委嘱す。

任務 常任委員又は委員會の指示により調査並に

研究に當る。

3 支部長

各支部の支部長之に當る。

支部内の調査の主任となり整理研究實施の督勵に當る。

調査研究委員會は次の如くす。

團長之を召集す。

座長は常任委員中より推す。

委員會を別ちて次の三とす。

常任委員會

支部長會

委員會

調査研究部に左の十一支部及調査區を設く。

野々宮支部……………支部を一區とす

猿田支部……………第一區より第二區に至る

上鹿山支部……………第一區より第八區に至る

中鹿山支部……………第一區より第三區に至る

鹿山支部……………第一區より第七區に至る

下鹿山支部……………第一區より第四區に至る

下鹿山下分支部……………第一區より第二區に至る

原宿支部……………第一區より第六區に至る

田波目支部……………第一區より第四區に至る

平澤川南支部……………第一區より第十二區に至る

平澤川北支部……………第一區より第十五區に至る

本事業に對し特に左記を顧問に推戴し指導を乞ふ。

日本農士學校教授 瀬下武松

本村村長

本村小學校長

其他本事業遂行上特に適切なるもの

調査研究の實施の概要

一、一般調査研究 調査研究の項目は別に之を定む

二、標準經營 農家の經營 部分的の經營

三、研究的實施

1 一般調査研究

調査研究事項は別に之を定む

但し實施の項目・方法・處理等は常任委員の指示又は支部長會・委員會に於て之を定む

2 標準經營

特に之を委嘱す

3 研究的實施

一人一研究とし研究の實施をなす

4 調査研究の結果は整理の上隨時發表するものとす

調査研究委員の申合

吾等は産業生活を通して青年の修養を圖ると同時に郷土の理想實現を期するを念願す。

郷土の進展建設のためには、努力すべき各種の事項改善すべき諸事項、新に設く可き事柄等の必ず存するものにして、之を發見し之を實施すべきなり。而して

之等の諸事項は世の模倣に得らるゝものにあらずして高麗川の個性に即し、本村独自の工夫創設にあるを信じ、茲に郷土を調査研究し、郷土の全貌を見つめ、郷土生活の根底に横はる實狀を把握し、我が個性を知悉し、之を考察し、之を基調として我が郷土独自の對策を講究し、改善の方途を發見しては、それが實行に努め、恒久的に逐次光明に向ひ、堅實なる根底の上に、適切なる經營を樹立し、産業の振興、民風の興起を圖り、郷土建設への吾人の使命を全うせんとす。されば特に左の事項を信條とす。

一、調査研究は十ヶ年を以て一期とすること。

二、調査研究は共同の生活体験たること

三、郷土愛の精神を以て相互協調して本事業の目的遂行に邁進すること。

一般調査研究の項目

産業

1 主要作物について……………

各種目について……………

栽培反別

收穫戸數

處理價格

販路

2 特殊作物について…………… 同前

3 養蠶業…………… 各期に對する收購高

4 蔬菜園藝…………… 桑園關係

5 家畜家禽…………… 勞力 其他

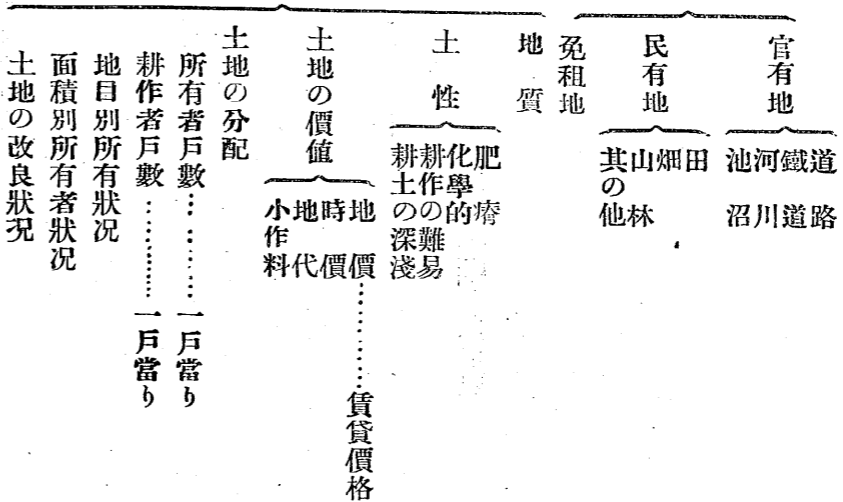
6 手工業…………… 繩 其他

土地

1 面積

2 地勢

3 地目別



土地の出入
 他町村人の本村内に於ける所有
 本村人の他町村に於ける所有

戸口

聚落別戸口

性 別 人口・戸數

年令別

職業別

勞力調査

一家に於ける勞力

動 力

畜 力

勞 銀

農 具

勞力過不足調査……雇人關係

肥料

自給肥料

金 肥

作物と肥料との關係

肥料と土地

勞力と肥料との關係

商業

金融關係

物資の需給關係

通信交通との關係

工業

工業の種類

工産物

勞働關係

産業概括……改善

(以印刷替謄寫)



